



つむぎおり

紬織

佐々木苑子のわざ

35ミリ・カラー・33分

企画 文化庁

製作 桜映画社

販売価格（消費税別）

DVD 1個人価格 5,000円

ライブラリー価格 30,000円
（団体使用権付）

16ミリ 240,000円

重要無形文化財「紬織」保持者、佐々木苑子。

佐々木は、自己の内面を投影した創作絵紺による文様を、格調高い色糸とともに織り込んでいく。機が「越ひとこし打ち」込まれるたびに、佐々木でしか表すことのできない紬織の新しい価値と美がうまれていく。

現代染織工芸の前衛をひとりあゆむ佐々木の作品制作の全貌が、ついに35ミリフィルムの質感と鮮やかな映像によって記録された。

平成23年度 工芸技術記録映画

文部科学省特別選定

創作の現場を垣間みて 舟越 桂 (彫刻家)

佐々木苑子さんと私はいとこ同士だ。

私の母と苑子さんのお母さんが姉妹だった。だから、私の子供時代から、苑子さんの記憶はある。年下の私にとっては、どこか少し怖いところのあるいとこの「お姉さん」という感じがしていた。その後、大人になった苑子さんが織物と出会って、絵紺という紬織の作家になっていったのを知った。

いつの頃だったか、私が彫刻家になってからだだったと思うが、苑子さんの仕事場を見せてもらったときのことは忘れられない。茜色という色だったろうか。ピンクや朱や緋色とかが混ざったような、何とも言葉にできない、暖かく華やいだ色の着物が出来上がってすぐのように、衣桁に掛かっていた。そして、白い鳥の文様が柔らかな輪郭で規則的に配されていた。

その鳥の形が機で織られる前に、長い糸の段階ですでに染められていると聞かされたときの、驚きと感動は、今でも忘れられない。

また、織り始めたら、同じ精神状態で、毎回、機に向かわなければ、文様がずれてしまうという話も心に残っている。

大変な仕事だと思った。自分をコントロールしつづけることが要求される。その場で「ぼくにはできない仕事だ!」と思った。

私はもっとゆるい。集中したり、ほうけたり、迷ったり、変更したりすることが多い。そして変化の少ない繰り返しの作業が苦手だ、鑿研ぎのような…。

苑子さんの仕事の過程を、この映画で見せてもらって、昔感じたちょっとした怖さの謎が解けたような気がした。きっと、苑子さんは子供の頃から自分が打ち込める何かを、本気で探していたのではないだろうか。まだ見つからないことへの不満にも、誠実に向きあいつづけていたのではないだろうか。その探究心と誠実さが、紬織絵紺という厳しい仕事に、苑子さん独自の世界を築きあげる原動力になっていったのではないだろうか。

この映画を見ると、苑子さんの制作を仕事場でずうっと見せてもらっているような気持ちになる。

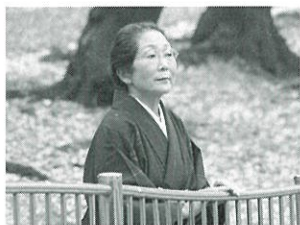
〔DVD 収録内容〕

1. プロローグ
2. 佐々木苑子のあゆみとその作品
3. 図案の作製
4. 種糸づくり

5. 括り
6. 植物染料による染色
7. 機織りへの準備
8. 織り
9. エピローグ・完成作品

佐々木苑子 ささき・そのこ

昭和14年(1939)、東京に生まれる。昭和40年(1965)から3年間、静岡県の手織紬工房で技術を学び、鳥取県弓浜や島根県広瀬で経綵、緯綵ならびに絵紺を学ぶ。昭和44年(1969)、自宅に織物工房を開設する。植物染料によるやわらかな格調高い色彩表現と、抽象と具象を交錯させた緻密な紺文様を紬織に取り入れ、独自の作風を築いて高く評価される。平成17年(2005)、国の重要無形文化財「紬織」の保持者に認定される。



協力
東京国立近代美術館
日本民藝館
カトリック初台教会
ハースト婦人画報社
(株)カメラタ・トウキョウ
杉並区立 方南会館
鈴木典子(佐々木苑子 助手)
川端小麦(佐々木苑子 助手)
柏木美由紀
中山早苗

重要無形文化財・関連作品DVD

「彩なす首里の織物—宮平初子」40分

「友禅—森口華弘のわざ」30分

「芹沢銈介の美の世界」35分

「芭蕉布を織る女たち—連帯の手わざ」30分

DVDご購入のお問い合わせはこちらへ

株式会社 桜映画社

〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷4-20-1 千駄ヶ谷ビル4階
tel.03-3478-6110 fax.03-3478-5966 http://www.sakuraiga.com